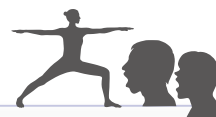




北斗病院・十勝リハビリテーションセンター パーキンソン病へのアプローチ LSVT® LOUD/LSVT® BIG

十勝リハビリテーションセンターでは2023年6月から外来リハビリにおいて、パーキンソン病患者様へのリハビリに発声練習方法のLSVT® LOUDと動作練習のLSVT® BIGを導入し、現在まで8人の患者様に実践いたしました。



パーキンソン病について

パーキンソン病は身体のふるえ、動作がゆっくりになる、筋肉がかたくなり動かしにくくなる、転びやすくなる等の症状を特徴とする病気で、高齢になるほどかかりやすくなるといわれており、世界的にも患者数が増えています。原因は未だに解っておらず、日本では難病に指定されています。主な治療は投薬治療となりますが、運動機能や日常生活レベルを維持するためにはそれと併用し、早期からのリハビリテーションが有効と報告されています。



LSVT® とは

米国で開発されたパーキンソン病に特化したリハビリの方法で4週間の間、集中的にリハビリを実施するプログラムとなっています。対象としてはパーキンソン病の症状が軽度から重度の方まで幅広く対応可能とされていますが、特に日常生活が自立されている方への効果について多くの報告がされています。

LSVT® LOUD



LSVT® LOUD は、声の大きさに焦点を当てたトレーニングを行い、声を大きく出す習慣を身につけて、日常会話の改善を目指します。

LSVT® BIG

LSVT® BIG は、身体の動きの大きさに焦点を当てたトレーニングを行い、集中して大きな動作を繰り返し、日常生活動作の改善を目指します。



LSVT® の効果について

リハビリの効果としてLSVT® LOUD については発話明瞭度や、摂食嚥下障害の改善、LSVT® BIG に関しては歩行や日常生活動作の改善に効果が高いと報告されています。LSVT® を実践するには講習会を受講し、認定を受けたセラピストが必要ですが、当法人には現在、理学療法士2名、言語聴覚士2名の認定セラピストが在籍し、対応に当たっています。また、高頻度の通院が難しい方にも対応できるよう、北斗病院では2024年2月から入院でLSVT® が実施できる体制も整え、現在までに2名の患者様が利用されました。現在、患者様の希望や身体機能にあわせ入院・外来リハビリのどちらで対応するか検討するとともに、LSVT® または通常リハビリでの対応を検討しております。

私たち独自の取り組み

当法人独自の取り組みとしては、患者様自身にリハビリの効果を実感してもらうために、歩き方やバランスの状態を専門の機器などで測定し、その評価結果を患者様にわかりやすい形でお伝えしています。評価は開始前、終了時、その後は3ヶ月毎に実施し、プログラム終了後も定期的な評価を継続させて頂き、その結果を踏まえ、リハビリの再開などを検討させて頂いております。

リハビリ回数・期間について

- 週4回以上の1回リハビリを4週間(計16回)実施
- 1回のリハビリは1時間
- 自主練習はリハビリ実施日は1回、実施していない日は2回実施
- 外来での通院が難しい場合、北斗病院に入院して行うこともできます。

リハビリ内容

LSVT® LOUD の主な内容は声の大きさに焦点を当てたプログラムを定められた回数で、高い努力の元を実施する内容となっています。

LSVT® BIG の主な内容は運動の大きさに焦点を当て、身体を大きく動かす動的ストレッチを中心とした基本運動プログラムと日常生活動作を練習課題とした課題動作練習が主体となっています。

双方ともにリハビリ内容を補完する形で自主練習メニューがあり、自主練習は20～30分の内容を毎日実施することが必要です。

今後の展望としてはより多くのニーズにお応えできるようLSVT® の受講者の増員を予定しています。パーキンソン病患者様で話しにくさや思うように身体が動かないことを感じられており、当法人でのリハビリに関心がある方は是非一度ご相談ください。

【お問い合わせ】 十勝リハビリテーションセンター Tel0155-47-5700 理学療法士 斉藤 貴志

